義太夫

義太夫協会会報
第85号
平成19年7月15日
社団法人　義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11　文明堂3F
TEL・FAX（3541）5471
http://www.gidayu.or.jp

平成十九年通常総会終了

去る六月三日（日）松竹本社・第一、第二会議室に於て、定例の社団法人義太夫協会の総会が開かれました。昨年度の事業報告、並びに決算報告、今年度の事業計画・収支予算が承認されました。又、役員改選の年でもあり、新役員、理事が次ページの通り決定されました。

新年度を迎えて

社団法人義太夫協会会長
波多一索

少しずつ夏の香りがしてまいりました。常日頃、なにかと当協会の事業にご協力を賜り有り難うございます。

さる六月三日、松竹本社会議室で当協会の総会が行われ、任期満了にともなう役員の改選が行われました。選挙の結果、次頁の役員の方々が選出されましたので、ご報告申し上げます。

なお、現在名誉会長の田邊秀雄先生には最高顧問にご就任頂き、前会長の景山正隆先生には名誉会長として今後とも大所高所よりご指導頂くことになりました。

さて、私こと、皆様方の温かいご推挙によって再び会長に就任いたすことになりました。まだまだ未熟な私でございますが、皆様のご期待に添えるよう努力してまいる所存です。なにとぞ変わらぬご指導のほどお願い申し上げます。

話は変わりますが、新聞を読んでおりましたら、二場所連続優勝した大関白鵬（モンゴル出身）の横綱昇進のニュースが目につきました。過日、スポーツキャスターの舞の海秀平さんとお話する機会があり、「最近は外国人の相撲が多くなってきましたが、その強さの秘密はなんですか」という日頃疑問に思っていたことをお尋ねしたことがあります。以下は舞の海さんのお答えです。

彼等には「その仕送りを切実にあてにしている大勢の親兄弟子供が故国にいるのです。それだけに自分が働かなければ、家族を養えないという切迫感があります。一方、日本人の新弟子は生活に困る者は少なく、親も『苦しかったらすぐ帰ってこい』と言って送り出します。ですから、極端な場合は入門したその日にすぐやめて帰る新弟子が何人もおり、親方も休日には弟子と一緒にボーリングに行って機嫌を取るといった有様で意気込みが違います。」

現在の教育の話にも通じそうですが、困るのは「強い外国人の関取が出てくると、次第に親方の言うことを聞かなくなり、相撲の秩序、伝統が破壊されて行くことです。」白鵬関には、「横綱の地位を汚さぬように精神一到を貫き」他の模範となるような横綱になってほしいと思いました。相撲は日本の国技なのですから。

安倍首相は「美しい国日本」を標語にかかげておりますが、そのためにはまず日本の伝統を守り伝えることが第一ではないかと、この頃切実に思っております。

開票風景

新役員紹介

最高顧問	田邊秀雄	
名誉会長	景山正隆	
会長	波多一索	
副会長	竹本朝重	
〃	竹本駒之助	
常務理事	竹本弥乃太夫	
〃	竹本綾之助	
〃	豊澤幸治	
理事	池田弘一	
〃	竹本綾太夫	
〃	竹本越道若	
〃	竹本越孝	
〃	竹本土佐恵	
〃	竹本土佐子	
〃	竹本素丸	
〃	鶴澤寛也	
〃	鶴澤津賀寿	
〃	鶴澤友路	
〃	鶴澤正一郎	
〃	豊澤源平	
監事	佐木鍾三郎	
〃	山岡知博	

正会員 TOPICS

「じょぎ」十周年迎える

お江戸上野広小路亭にて年五回行われている女流義太夫若手勉強会「じょぎ」が、三月公演で十周年（第五十回）を迎えました。

永谷商事様の御好意で始まったこの会ですが、当初は国立演芸場以外で定期的に女義の公演があるということがなかなか認識して頂けず、観客動員にも苦戦しました。

が、チラシやポスターなどでの宣伝、マスコミへのアピールなど地道に努力し、番組面でも朝重・駒之助協会両副会長に出演頂いたり、若手も普段の公演では取組めないような大曲に挑戦したりする中で徐々に多くのお客様に来て頂けるようになりました。いまでは奇数月開催の「じょぎ」に加え、遅れて始まった偶数月の「ぎだゆう座」とで「毎月1日2日の広小路亭は女流義太夫」と覚えて頂けることも多くなったようです。また、邦楽振興基金の助成を受けられるようになってからは、運営面でも安定してきました。

十周年を迎えるにあたって記念公演を、という話になり、昨年度から委員で話し合いを重ねつつ永谷商事様側の御意見を伺ったり、お客様にアンケートを実施して御要望等を募ったりしてきました。その結果お客様からは「奇をてらった企画などはいらないから、普

段通り真面目に勉強した成果を見せて欲しい」というありがたい御意見を多数頂きました。

これを受けてあまり特別なことはせず、ただ演目はお祝いの意味を込めての「萬歳」と、あとは「生写朝顔話」から「船別れ」「薬売り」「濱松小屋」「宿屋」「大井川」を２日間で通すことになりました。

また、四年前の三十回記念公演の折には出演者からお客様へ粗品を用意しましたが、今回はオリジナル手拭いを製作、皆様にお配りしました。

おかげさまで2日間とも大勢の方に御来場頂き、盛況のうちに記念公演を終えることができました。

出演者一同ますます努力を重ねてまいりますので、今後とも「じょぎ」および「ぎだゆう座」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

文化庁国内研修を受けて

鶴澤津賀花

昨年六月より今年の三月までの十ヶ月間、平成十八年度新進芸術家国内研修制度を受け、文楽の豊竹嶋大夫師匠、鶴澤燕三師匠にご指導をいただきました。また二回の研修発表会では竹本駒之助師匠に語っていただき、十二月に『仮名手本忠臣蔵 大序』、二月に『壇ノ浦兜軍記　阿古屋琴責めの段』の三曲を勤めさせていただき、大変貴重な勉強をさせていただきました。研修を通して、義太夫三味線の表現力の豊かさ、難しさ、奥深さを改めて強く実感いたしました。長い修行の道のりですが、研修で得たことを基礎として、今後もさらなる努力を続けてまいりたいと思います。

木村　新

この一年間に三味線の製作、修理、調整の技術と原材料、必要な道具についての知識を始めとして、邦楽界のしきたり、接客に至るまでを体験することができました。

また、義太夫教室を受講したことにより、使う立場に立って楽器のクオリティを高めて行かなければならないことを実感しました。

学ぶことは多く、まだまだ多くの時間と経験を重ねることが大切だと思いました。

三味線の技術を教えてくださった先生方、邦楽関係の先生方の教えを生かせるよう今後も努力を重ねて行きたいと思います。

新正会員のご紹介

本年三月、また新たに正会員が誕生しましたので、ご紹介いたします。

三月五日、国立演芸場にて行われた女流義太夫演奏会で、竹本駒之助門下の鶴澤賀津女さんが「釣女」で初舞台を迎えました。これまでの見習い期間では、国立演芸場での女流義太夫の公演や、じょぎ、ぎだゆう座の公演の手伝いをはじめとする様々な経験をしましたが、今後はそれに加え、いよいよ御廉内や舞台出演の機会が増えて参ります。これからも彼女をはじめとする、女流義太夫へのより一層のご支援、ご声援を、どうぞよろしくお願いいたします。

賀津女「一層の精進を致して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。」

ほんに気がメ〜リヤス（三杯目）

鶴澤慎治

「ぬめり」の所で書きましたように、後にめりやす物と呼ばれるようになった曲は、享保期に上方から江戸に流入した三味線音楽の影響を受けたもので、それまでの江戸のものに比べて随分しんみりとしたものでした。だから、なのかどうかは分かりませんが、それを聞いた廓の遊女が「気が滅入りやんす」といったのが訛って「めりやす」となった、というほとんどおやじギャグレベルの俗説に基づいているのが「めりやす＝滅入りやんす」説。と書いておきながら、この項のタイトルもそれをもじっております。

『吉田屋』に取り入れられている地歌『由縁の月』は、長唄にも取り入れられ、めりやすの代表曲の一つとなっています。作曲者の鶴山勾当は、繁太夫節（宮古路豊後掾の門弟豊美繁太夫が語り出した浄瑠璃、つまり常磐津とは兄弟関係にある）を「繁太夫物」として地歌に取り入れたことで知られ、後に江戸に下り、自らの作曲や繁太夫物を鶴山節として流行らせました。が、その曲調が哀愁にすぎるとの理由で吉原では禁ぜられたと『吉原雑話』にあります。彼が演奏していたのは座敷浄瑠璃に近いものだったと思われますが、心中沙汰を増やしそうな浄瑠璃は禁止になり、めりやすは花魁の気を滅入らせる程度ですんだ、ということでしょうか？

鶴山勾当が『由縁の月』を作曲・初演したのが元文五年（一七四〇）、浄瑠璃を地歌に取り入れたのもほど遠くない頃、つまり『菅原』『千本桜』『忠臣蔵』の三大名作が相次いで初演され、すぐに歌舞伎化された前後の、人形浄瑠璃の全盛期というわけです。

ところでこの『由縁の月』、てっきり夕霧伊左衛門にあてて書かれた曲と思いの外、特定の誰かを想定して作られた曲ではなかったものが、後から浄瑠璃、歌舞伎の夕霧物に取り入れられたのだそうです。先年流行った映画『世界の中心で、愛をさけぶ』で、平井堅が歌った主題歌『瞳をとじて』は、失恋の喪失感を歌にした旨、本人がＣＤのライナーに書いておられましたが、音楽というものには「想像力」が大事なのは今も昔も変わらないのだなと思った次第です。

さて、これまでに見てきた通り、「ぬめり」説と「滅入りやんす」説は、どうも長唄の「めりやす」に関連した説と考えるのが妥当のように思われます。では我らが義太夫の「メリヤス」はいかに？…義太夫の「メリヤス」に対して、黒御簾の「合方」については、享保十七年（一七三二）上演の『傾城妻恋桜』の台帳の卜書きの中に「あいかた」の言葉があり、あるいはその頃から現在の黒御簾合方のようなものがあった可能性を示しています。が、義太夫の「メリヤス」については、語源もさることながら、そもそもメリヤスのような器楽曲を使った演出がいつ頃から始まったかなど、分かっていないことの方が多いのだそうです。

先々号でも触れました通り、繊維の「メリヤス」は南蛮貿易を通じて日本に入ってきた舶来品でありますが、だから、なのか、たまたまなのか分かりませんが、義太夫のメリヤスには、舶来、つまり、他ジャンルの音楽から移入したものが多くあり、竹本（芝居）で使用するメリヤスに関していえば、地歌から入ってきたと思われる曲も相当数あります。

この点に関して、先年国立劇場養成課の教材として完成した『竹本メリヤス集成』の解説書において、筆者が三味線伝来から幕末までの歴史の中で、純粋に音楽として演奏された地歌と、芝居音楽の接点に関する考察を試みました。が、この解説書はいわば内部資料として作成されたものなので、一般の方が見る機会はありません。

そこで次回からは、その考察で得られた成果を小出しにしながら（笑）、この会報の空きスペースに対して自由に伸び縮みいたしたいと思います。

《参考》

『日本音楽大事典』平野健次・上参郷祐康・蒲生郷昭監修　平凡社
『歌舞伎音楽の研究〜国文学の視点〜』景山正隆著　新典社
『近代歌謡集』藤田徳太郎編　博文館

第五十九期義太夫教室 終了

昨年五月から始まった第五十九期義太夫教室が、今年三月十五日に無事閉講式を迎えました。今期の生徒数は十四名（終了時）、二十代から七十代まで幅広い年齢層の方が参加し、人形町にある東京鴨治床山ビル2階でお稽古を行ってきました。実技の講師は、語りは竹本綾之助師、竹本越京師、三味線は鶴澤駒治師です。五～七月の初級は主に義太夫に関する講義と語りの実技、九月からの中級は毎回語りと三味線の実技をお稽古しました。今期の生徒さんは、非常に出席率がよく、初級・中級通しての皆勤賞を受けた方が二名いました。また今期は例年になく、マイ三味線を教室期間中に購入した方が多く、楽器への愛着もひとしおでした。語りのお稽古をした演目は、宿屋、木遣音頭、寺入り、裏門です。

そして、三月十日はＯＢ会（於 スペースＦＳ汐留）。五十九期生にとっては、約十ケ月間のお稽古の成果を発表する晴れの舞台。当日、早い方は九時半には会場入り。まずは三味線メドレーです。楽屋で最後のお稽古をしてから、本番用に三味線の糸も張替え、着物を着て肩衣を着けると準備ＯＫ。いよいよ緊張も高まります。三味線メンバーは十人、メリヤスや、フシオクリ、野崎村等、約十分、それぞれが担当する所で掛け声をかけながら、がんばって最後まで弾ききることができました。先輩方の演奏を聞きながら少し休憩をして、次は語りの裏門の段です。語りのメンバーは十二人です。少しずつソロで語りつないでいくというかなり度胸のいる舞台です。しかし普段からお稽古で鍛えられている皆さんは、堂々と語ってのけました。ここまでくるともう場慣れしてきたか、楽屋では楽しくおしゃべり、団欒ムードの中、最後の舞台、木遣音頭の段を迎えます。三味線のみの受講生、五十九期生のご家族、先輩、そして先生方に見守られ、全員で一生懸命語りました。

熱のこもった舞台に、お客様からも大きな拍手をいただき、無事ＯＢ会は終了しました。楽屋に戻ってくる皆さんのお顔は、達成感、満足感といった笑顔に満ち溢れていました。一年近く共にお稽古してきた仲間との絆も一層強くなったことと思います。せっかくのご縁、これからも大切に。卒業おめでとうございます。

義太夫教室ＯＢ演奏会開催

三月十日（土）新橋にあるスペースＦＳ汐留において毎例恒例のＯＢ会が開催されました。今年は昨年までの東京証券会館ホールから会場を移しての開催となりました。今回は五十九期生の卒業演奏を含めて十九組の参加となり、フランス人太夫の参加もありました。

義太夫教室六十期記念祝賀会のお知らせ

義太夫教室は本年、第六十期を迎えることとなりました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と、深く感謝申し上げます。つきましては左記の通り、心ばかりの式典を開催いたします。これを機に、同期の方々と同窓会のつもりでお集まりいただければ幸いです。

記

日時　平成十九年七月二十八日（土）
　午後二時～五時
会場　銀座東武ホテル 芙蓉の間
会費　五、〇〇〇円
内容　六十周年記念パーティー
　アトラクション
　①教室ＯＢによる
　　義太夫演奏（野崎村の段）
　②女義による天地会（忠臣蔵七段目）

※時期が迫っておりますので、参加ご希望の方は、お早めにご連絡ください。

お役立ち情報
―脳は若がえる―

「人の名前がすぐに出て来ない！」という経験、よくありますか？　そんな方に朗報です。老化現象だとあきらめないで下さい。

歳をとるとモノ忘れやド忘れが増えますが、これは記憶する為の努力、行動が減っていくからだそうです。人間は歳をとるにつれて、新しい事を記憶せずとも生きていける様になるのが常で、だからこそ記憶力が衰えていく、と考える事が出来るわけです。

ほんの一昔前まで、「脳細胞は再生しない」という常識がありましたが、近年さまざまな研究、実験によって、その常識はくつがえされました。神経細胞の総数は二十歳頃をピークに減っていきますが、脳の機能はむしろ加齢と共に強化されていきます。ですから、人は死ぬまで物事を記憶できるし、記憶した事を活用していけるのです。

ただしそれには、一つだけ条件がつきます。「新しい刺激を、日々脳に与える」、という条件です。神経細胞の新しいネットワークが、新しい刺激を受ければ受けるほど、使えば使うほど発達していく――つまり若がえる器官だから、なのだそうです。

脳に刺激を与える方法として、すぐにでも実行できそうなのが、「散歩」です。適度な運動は、脳の血流を良くします。又、書く事も脳の機能を上げます。今、「ぬり絵」が注目を浴びていますが、「写経」は、それ以上に脳を刺激すると言われています。

人は普通、歳をとれば新しい刺激から遠ざかっていきがちです。心して、新しい刺激を作り出してまいりましょう。

脳・豆知識

○脳の唯一のエネルギー源は「ブドウ糖」

脳の働きを維持するには、ブドウ糖をしっかり補給する―つまりブドウ糖の元である、お米やパンなどの炭水化物をとる事です。このブドウ糖は、脳内では作られず、貯蔵されないので、「三度の食事をきちんと摂る」事が基本です。そして、特に朝食は大切です。

朝起きた時、脳はすでにエネルギー不足に陥っている為、朝食を食べずに出かけると、脳はブドウ糖不足となり、十分な力を発揮できません。朝食を抜くと記憶力も低下するという、実験データもあります。

○よく噛む習慣は、脳の血流を増やす。

アゴを動かすと、脳へ送られる血液が増えます。ガムを噛むと眠気が醒めるのは、その為です。流動食しか食べられない人が認知症になるケースが多いのは、咀しゃくの回数が少ないことが大きな要因の一つと言われています。強く噛むことは必要なく、たくさん長く噛むことが大切だそうです。

○記憶は睡眠中に整理され、定着する。

睡眠不足は、脳の情報処理能力、記憶力、集中力などを低下させる事が明らかになっています。いくら考えても、これ以上前には進まない――そんな時は思い切って眠ってしまいましょう。

物忘れを防ぐためのメソッド⑫

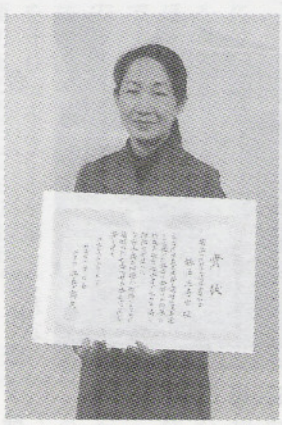
①覚えたいと思ったら徹底的に繰り返す。
②体を使って覚えた記憶は、忘れにくい。
③ど忘れは、必ず思い出せる。場所や時間を変えて思い出してみる。
④「意味のないもの」を覚えるには、まず語呂合せで！
⑤自分にとって一番頭の冴えている時間を見つける。
⑥目で見て記憶するものは左側に置くと覚えるのも早い。
⑦ゆっくり記憶力を高めるにはＤＨＡを！
⑧現場を見て、かつ体験することで右脳は鍛えられる。
⑨タバコはやめること。記憶力にマイナスどころか、ボケになる可能性も大。
⑩自分に興味のある事をどんどん覚え、「覚えられる!!」という自信を持つ。
⑪健康食品としてイチョウ葉エキスを利用する。ただし、とり過ぎには注意。
⑫リラックスを心がける。笑顔や昼寝も記憶には効果的。

協会の動き

'07年1月より
'07年7月まで

1月6日　「ぎだゆう座」初春公演　於お江戸両国亭
1月13日　「素浄瑠璃の会」於お江戸日本橋亭
1月16日　分野別会議　於芸能花伝舎
1月18日　女流義太夫演奏会「寿式三番叟」他　於国立演芸場
1月22日　普及部会　於協会資料室
1月26日　編集会議　於協会資料室
1月29日　芸団協臨時総会　於芸能花伝舎
2月1・2日　編集部会　於協会資料室
2月13日　「ぎだゆう座」二日間　於上野広小路亭
2月17日　ＯＢ会ホール打合せ　於スペースＦＳ汐留
3月1日・2日　鶴澤津賀花研修発表会　於お江戸日本橋亭
3月4日　「じょぎ」公演　二日間　於上野広小路亭
3月5日　都民のための邦楽演奏会　於国立小劇場
3月10日　女流義太夫演奏会　伝承者研修発表会「釣女」他　於国立演芸場
3月15日　義太夫教室ＯＢ演奏会　於スペースＦＳ汐留
　第59期義太夫教室閉講　於人形町スタジオ
3月16日　常務理事会　於協会資料室
3月22日　女流義太夫演奏会「義経千本桜」　於国立演芸場
3月23日　芸団協総会　於芸能花伝舎
3月24日　理事会　於築地社会教育会館
4月1・2日　「ぎだゆう座」二日間　於上野広小路亭
4月13・14日　第4回　はなやぐらの会　於ほり川
4月15日　備品部作業日　於本郷稽古場
4月22日　1日体験教室　於人形町スタジオ
4月25日　女流義太夫演奏会「菅原伝授手習鑑」　於国立演芸場
4月27日　車人形公演　於高幡不動尊
5月1日・2日　「じょぎ」公演　二日間　於上野広小路亭
5月9日　編集会議　於協会資料室
5月13日　第三回　吉遂会　於かくえホール
5月19日　第85回　大日本素義会　於鳥越神社白鳥会館
5月22日　平成18年度会計監査　於協会資料室
　女流義太夫演奏会「重の井子別れ」他　於国立演芸場
5月24日　義太夫教室第60期開講　於ＴＫビル
5月26日　理事会　於松竹本社第二会議室
6月1・2日　「ぎだゆう座」二日間　於上野広小路亭
6月3日　平成19年度総会　於松竹本社
　第一・第二会議室
6月6日　編集会議　於協会資料室
6月19日　女流義太夫演奏会「酒屋の段」他　於国立演芸場
6月23日　車人形公演　於東京未来塾
6月26日　第5回たつみ会　於上野広小路亭
7月1日・2日　「じょぎ」公演　二日間　於上野広小路亭
7月15日　会報第85号発行

鶴澤三寿々　清栄会奨励賞受賞



財団法人清栄会は、一九六三年に亡くなった重要無形文化財保持者の清元栄寿郎氏の遺産を基に、一九七三年に設立されました。清栄会奨励賞は三味線音楽の研究者と伝承者（演奏家）に授与されるものです。第20回目の今回、伝承者部門の受賞者に鶴澤三寿々が選ばれました。古典芸能の明日の担い手として、その技量が評価されたものです。

これからの予定

7月28日　義太夫教室六十期記念パーティー
　於銀座東武ホテル　芙蓉の間
　※詳細は5ページ参照。
8月25日　一日体験教室　於ＴＫビル3階
　語り　二時より　竹本　越京
　三味線　十一時より　鶴澤　駒治
　五時より　鶴澤津賀寿
9月6日
～3月13日　義太夫教室第六十期中、上級
10月8日　第十回駒之助の会　午後二時より
　於紀尾井小ホール

平成二十年
1月5日　ぎだゆう座初春公演
　於お江戸両国亭
3月8日　東京都邦楽演奏会
　於国立小劇場
3月9日　義太夫教室ＯＢ演奏会
　於スペースＦＳ汐留

《訃　報》

山口義一様（賛助会員）
　平成十九年五月二十日逝去

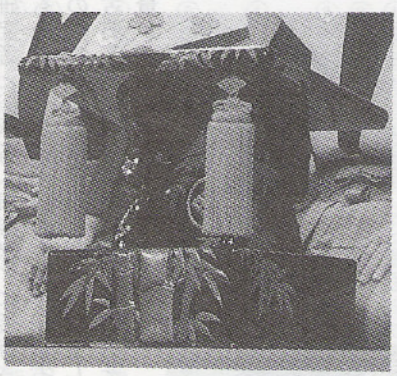
「平成十八年　国立演芸場　女流義太夫寫眞帖」発売中

このたび、女流義太夫の写真集が発売されました。これは平成十八年の国立演芸場における定期公演の記録を集めたものです。定価一七、五〇〇円。お問い合わせは義太夫協会までどうぞ。

寫眞帖の一部です

《寄　贈》

見台　若松豊子様


4月25日演芸場でのおひろめ

〔編集後記〕

○これで肩の荷を降ろせます。（T）
○紫外線が強くなり、お肌に気をつけたい。（T2）
○一日一日を大切にしたいです。（S）
○これにて卒業です。お世話になりました。（K2）
○編集部の仕事を覚えた頃に移動。転勤するみたいな気分です。（K3）
○楽しい、楽しい編集部でした！
いろいろとありがとうございました。（Y）